「勇気の証」を手に入れよう

４年生の生活が始まって今日で５日目。

すでに、教室では色んな話をしました。

そのほとんどは、「いったいなぜそれをすることが大切なのか」という「趣意」の話です。

例えば、クラスが始まって２日目の朝。

私は、次のことを質問してみました。

昨日、鉛筆を削ったという人？

全部で７人の手が上がりました。

「それはとても素晴らしいことですね」と力強く伝えた上で、次の話を伝えることにしました。

元メジャーリーガーのイチロー選手のお話です。

イチロー選手は、アメリカや日本各地の学校で講演会をしています。

スーパースターの来校に、どの子も大興奮です。

当然、子どもたちは次の質問を投げかけます。

「どうしたらイチロー選手みたいに野球がうまくなりますか？」と。

イチロー選手は、きまって次のように答えるといいます。

自分の持っているバットやグローブを大切に使うことだよ

シアトルの小学校で講演会をした時も、次のように話したそうです。

みんな道具を大切にしてください。

お父さんやお母さんに買ってもらったバットやグラブを大切に扱い、手入れすることで好プレーが生まれるんです。

一見、道具を大切にする事と野球が上手くなる事は、結びついているようには思えないかもしれません。
ですが、その野球のトップを走り続けてきたイチロー選手は、使っている道具を大切にする事こそが一番大切だと言っています。
小さなころからイチロー選手は、野球道具を大切にしていました。
どんなに夜遅くまで練習があっても、ロッカー室に戻った後にスパイクの土を落とし、バット、グラブを一時間以上丹念に手入れしてから帰ったそうです。

子どもたちは、この短いエピソードを非常に集中して聴いていました。
イチロー選手が野球で使っている相棒ともいえる道具がバットやグローブならば、みんなが勉強で使っている相棒ともいえる道具の筆頭は鉛筆です。
これらはどちらも同じ、道具です。
勉強や運動を通してぐんぐんと成長していくために、努力する事や練習する事ももちろん大切です。
ですが、それ以上に大切なのは、まずお父さんやお母さんに買ってもらった勉強道具を大切に使うことだと私は思っています。
そのようにして小さな道具を大切にする心からは、きっと大きな見えないプラスをきっとたくさん生まれていきます。
イチロー選手の言うように、それ自体が勉強におけるファインプレーを生み出すことにつながることもきっとあるでしょう。
その第一歩が、鉛筆を削ることだと思ったので、朝の会で先ほどのように質問をしたのでした。
もちろん、鉛筆以外にも勉強道具はたくさんあります。
習い事やクラブやほかにも使っている道具だって山とあるでしょう。
が、まずは鉛筆の扱いをスタートラインとして、一つひとつ物を大切に使える練習をしていきたいなと考えています。（お家でそんな風に道具を手入れしたり、大切に扱う姿を見かけたら、ぜひ一声褒めていただければ幸いです。）

と、このように、今の所あらゆるところにおいて「何故それが大切なのか」をできる限り丁寧に伝えるようにしています。
「〜〜をしようね。」「〜〜は大切だよ。」
こうした指示や語りは、ある一定の年齢までは素直に聞くことができます。
しかし、思春期が近づき自我が確立されてくると、そうはいきません。
「右向け右」と聞いて、今までなら素直に聞けていたものが、人は次第に「なぜ右を向かねばならないのか」と考え始めるようになるからです。

これは、健全な成長過程だといえるでしょう。
この時、「いいからやりなさい！」と断固として教えざるを得ない場合もあるかもしれません。
ただし、私は学校ではそれをできるだけしたくないと思っています。
理由はとても簡単です。
私自身が子どもの頃、大人から同じように言われた時、まるでやる気が起きなかったからです。
世界的大ベストセラー、『人を動かす』（D・カーネギー著　創元社　1999年）にも次のように書いてあります。

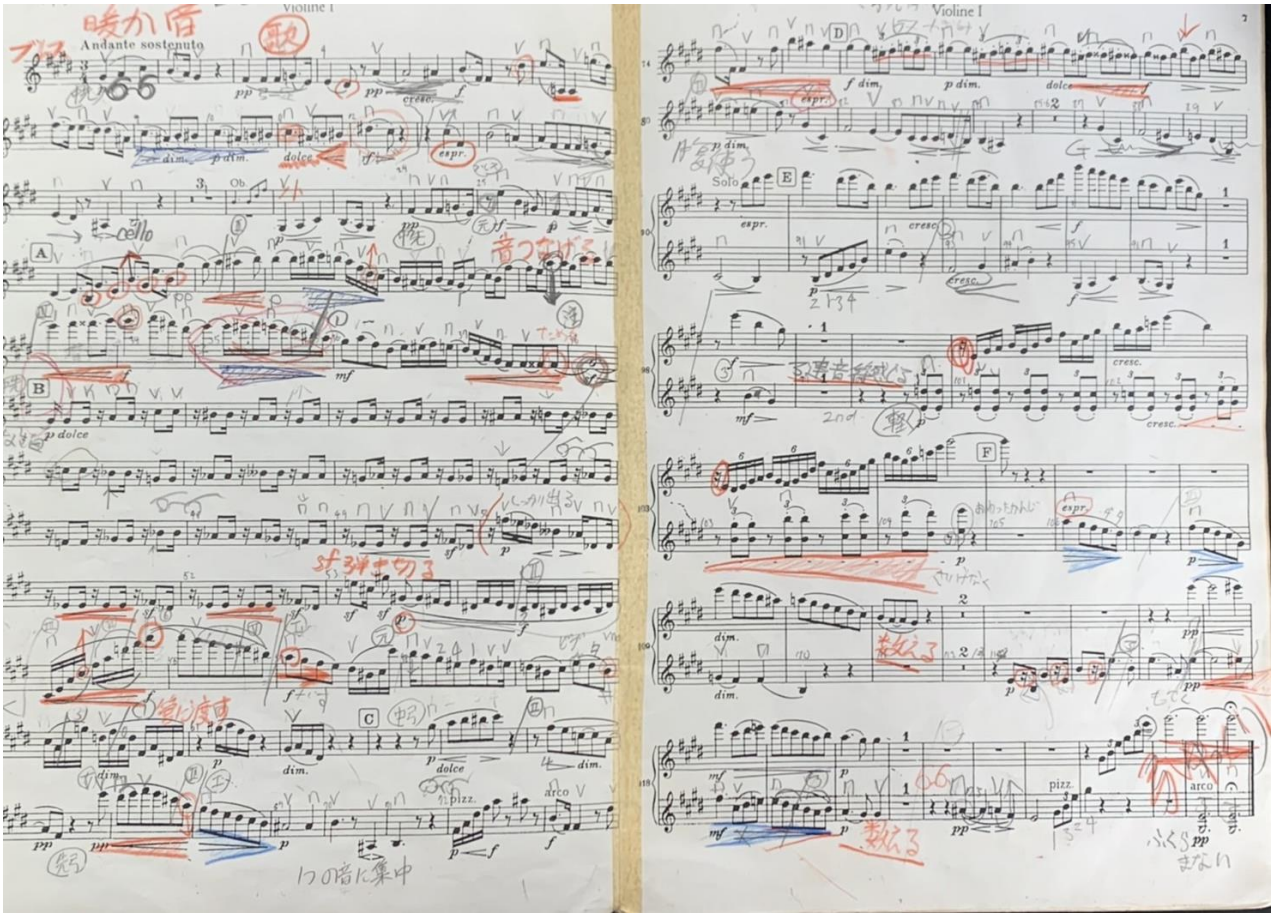
人を動かす秘訣はこの世にただ一つしかない。 自ら動きたくなる気持ちを起こさせること―これが秘訣だ。

「何だか分からないがやる」という状態は、「考え」も「理解」も不安定であり、この状態に慣れると、「何も考えなくても行動さえしていればいい」と、不安定な状態をそのまま受け入れるようになってしまいます。
つまり、知性的な状態からどんどん離れていくことになります。
だからこそ一方通行の言い方で動かすのではなく、自分でやっていることに自分で納得して取り組めるようにしたいと考えています。
そして、そこに「憧れ」のような前向きな感情が伴うことができれば、これは一つの理想であるといえます。
そうした背景から、「何故それが大切なのか」「どうしてこれをするのか」という趣意をできる限り丁寧に伝えたいと考えています。

他にも、２日目にこんな場面がありました。
４ 年生にメインの進行や運営が任されている、「1 年生ウェルカムプロジェクト」。
このプロジェクトのリーダーを決める時のことです。
いきなり立候補を募ってもよかったのですが、私はまず次の話をまずすることにしました。
それは、自分の「宝物」の話です。
教室の棚にある引き出しからおもむろに取り出したのは、10 ページほどの楽譜です。
今から２０年以上前に使ったものなのでで、既にボロボロです。
その楽譜を手にしながら、次のように伝えました。

先生が小さい頃一番苦手だった勉強。
それは、音楽です。（子どもたちはエッという表情）
苦手になったきっかけは、楽譜が読めなかったことでした。
小学校１年生の時に、自分が思うように鍵盤ハーモニカが吹けなくて、しかも楽譜も読めなくて、音楽が嫌いなまま大きくなりました。
小学校高学年になっても、中学生になっても苦手で嫌いのまま。
そんな先生が高校生になった時に、ふとしたきっかけでバイオリンを始めませんか？と誘われたんです。
もちろん最初はやるつもりはありませんでした。
だって音楽が苦手で嫌いなんですから。
でも、熱心に誘ってくれた人の気持ちに動かされて、「よし、やってみるか」と高校１年生からバイオリンを始めてみたわけです。
結果、それから20年以上たった今でも演奏を続けています。
バイオリンだけじゃなく、他にも色んな楽器を楽しむようにもなりました。
演奏を通じてどれだけ素敵な仲間と繋がり、思い出ができたのか、それはもう数えきれないほどです。

子どもたちは、目をしっかり見開きながら、熱心に聞いていました。



その上で、私は付け加えました。
この楽譜は、自分にとっての「勇気の証」であることを、です。
あの時、「よし、やってみるか」と行動を起こして、たくさんの努力や練習を積んで、3 年かかってようやく弾けるようになったのがこの楽譜です。（曲目はブラームスの交響曲第 1 番）
繰り返しますが、私は高校に入るまで全く音楽経験がありませんでした。
当然、ピアノも一切弾けないですし、楽譜も読めません。
習い始めてからも、コンサートで何度も失敗して恥ずかしい思いも経験しました。
そうして少しずつ努力を重ね、３年かけて弾けるようになったのがこのブラームスの一番です。
今でもこの楽譜を手に取ると思い出すのは、入部したばかりの頃に楽器を持つことすら満足に出来なかった 15 歳の自分の姿です。
自分の過去の姿ですから、それははっきりと覚えていますし、体にも残っています。
今改めて思うのは、「うまくいった経験」もそうですが、それ以上に「うまくいかなかった経験」が自分に教えてくれること、自分を支えてくれることが沢山あるなぁということです。
私は今でも時折この楽譜を見て、勇気や希望をもらっています。
そして、４－１のみんなにも、そんな宝物を人生の中で一つでも多く見つけてほしいなぁと思っています。
そのためには、「行動を起こす」ことが何より大切です。
将来振り返った時に、自分を支えてくれるような「勇気の証」を、みんなもぜひ見つけていってください。

そのような話をしてから、プロジェクトのリーダー・副リーダーの立候補を募りました。

みんなもこれから先、勇気を振り絞る場面が必ず出てきます。
もちろん緊張します。
やめておこうかなと思う事もあります。
けれども、勇気を出した経験は自分の夢をつかむ大きな力になります。
勇気という力は、筋肉と同じで挑戦というトレーニングを日々積み重ねることで初めてその力が鍛えられます。
そして、その勇気をもって踏み出した一歩が、自分の将来を大きく変えるこ

とが山ほどあります。
　その勇気を鍛える絶好のチャンスが、このような代表やリーダーの役割を決める瞬間です。
　実際に自分に決まるかどうかはわかりません。
　けれども、「勇気をもって立候補する」という行動は、確実にその人の心を鍛えてくれるでしょう。
　それでは、１年生を迎える会の代表を決めるための立候補を、募ります。

　たくさんの立候補の手が上がり、さらには初めてこういうチャンスで手が挙げられた！という子たちもいました。
　腹の底から、「凄い！」と思いました。
　はじめの一歩を踏み出す瞬間は、相当な勇気と決断がいります。
　自分が今まで成し得なかったことをするわけですから、使うエネルギーの量も尋常ではなかったはずです。
　そんな中、自分の力ではじめの一歩を踏み出した子たちに、大きな拍手を送りたいと思います。
　８０が９０になったり、９０が１００になるのももちろん素晴らしい事ですが、０から１に進む瞬間は更に尊い事だと思っているからです。
　その後、チャンスはみんなへ平等にとの思いから、盛大なじゃんけん大会によって代表を決定しました。
　最終的に代表メンバーが決まった時は、大きな拍手が起きただけでなく、「がんばれー！」「おめでとう！」と熱いハグをしに行く子たちもいました。

　実は、この他にも隙間時間などを使って、色んな話をしてきました。
　〇エジソンとフィラメント
　〇声でいじめられていた女の子の挑戦
　〇失敗の反対とは？
　いずれも、「なぜそれが大切なのか」を伝えるための小さな工夫です。
　その小さな工夫が大きな結果につながることが少なくないのが、この教育という営みの大きな特徴です。
　みんなが「勇気の証」を一つでも多く得ることができるように、そっと背中を後押ししていきたいと思います。